

授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：京滋の在地に学ぶ実践型地域研究 ILAS Seminar :Practice-Oriented Area Studies by Learning from the local people and areas in Kyoto and Shiga Prefecture		担当者所属 職名・氏名	東南アジア研究所 准教授 安藤 和雄			
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール
開講年度・ 開講期	2016・前期	受講定員 (1回生定員)	10(10)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	稲盛財団記念館331			使用言語	日本語
キーワード	過疎問題 / 耕作放棄地 / 地域再生 / 実践型地域研究 / 離農						
[授業の概要・目的]							
<p>京都府、滋賀県下の農村地域においても、農業離れ、過疎化、高齢化、耕作放棄地の増加、林地の放置などは進み、その影響により、地域に根ざし農村で育まれてきた生活文化や生活技術（伝統芸能、食文化、棚田などの農耕技術、林野利用技術、灌漑水利施設の維持技術）が消滅の危機に瀕している。他方、農村伝統文化を基軸とした地域再生活動が各地域から個別におきつつある。こうした動きに応じて、都市文化の模倣ではない、新たな発想に基づく「伝統文化に基づく地域再生活動を実践・支援し、大学教育における人材育成を盛り込んだ再生モデルとして一般化し、他の地域にも応用できるような仕組みをつくること、地域に根ざした大学としての火急の課題である」と考える。このことを実現していく上で、既存のILASセミナーの一つとして、東南アジア研究所の実践型地域研究推進室が取り組んでいる京都府、滋賀県の在り地（農村）で協働事業として取り組んできた京滋フィールドステーション事業を中心にその活動の内容に在り地に学ぶ楽しさと必要性を学ぶ。本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業（大学COC事業）」(京都学教育プログラム)における「まなびよし」として開講されるものである。</p>							
[到達目標]							
<p>日本の地域再生の草の根の活動の実例を学び、過疎問題、離農の問題の基本的な事項についても理解する。 実践型地域研究の手法についても学ぶ。 課題（講義内での発表）に対して、自主的、継続的取り組む能力を養う。</p>							
[授業計画と内容]							
<p>東南アジア研究所が亀岡、守山、朽木、南丹市美山町の農村部で、各NPO、自治会、集落住民との協働で運営しているフィールドステーション事業を中核に展開している実践型地域研究の実際を講義する。講師には、連携・協働者である亀岡市の地元NPOの一員として活躍している京都大学教員（岩田明久、矢嶋吉司）、京都学園大学教員、保津川遊船スタッフ、プロジェクト保津川メンバー、美山町知井振興会事務局長、美山町佐々里集落区長、滋賀県守山市のNPO事務局長、守山市美崎自治会会長らに講義を依頼する計画である。受講生はこれらの講義を聞くことにより、実践を通じて地域から学んでいる生の姿を知ることができる。また受講生を中心に学生有志を募り、有志の課外ボランティア活動として夏と冬の休暇に美山町佐々里集落において参加型農村調査と農村支援活動を、ブータンのシェラブッチェ大学教員・学生らとともに1週間程度実施し、国際協働実践を通じて地域に学ぶことも計画している。</p>							
ILASセミナー：京滋の在地に学ぶ実践型地域研究(2)へ続く							

ILASセミナー：京滋の在地に学ぶ実践型地域研究(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点
講義内での課題発表
最終講義日の講義時間内でレポートの筆記と提出

【教科書】

使用しない

【授業外学習（予習・復習）等】

新聞、インターネットなどでの過疎、離農、耕作放棄地などに関する記事をスクラップする

【その他（オフィスアワー等）】

課題を講義内で数回発表してもらうことと、今年は是非、実際の現場に行ってそこで学ぶことを考えていますので、現場訪問日は、講義参加者のもっとも都合の良い日にしたいと思います。学外でのフィールド講義やイベントへの参加に関する旅費などの費用は学生負担となります。また現場訪問を行う可能性があるため、学生教育研究災害傷害保険へ加入してください。